

NISSEI PARKING SYSTEMS

# COM

Vol.36 / 2024

NISSEI は、人と車と街と、いい関係。



Front Line ■ 建築家インタビュー

## 大西 麻貴 + 百田 有希/o+h

Arrangement ■ 納入事例

新虎安田ビル／ザヨコハマフロント／住友不動産中野駅前ビル

News Topics ■ ニューストピックス

2025年大阪万博「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛／福島工場の製造現場をYouTube動画で公開／さらなる安全意識向上へ VR動画による研修を導入／GrowOneメンテナンス紹介

Information ■ COMプレゼント

日精株式会社

PRESENT FOR READERS



Qi(チー)対応  
ワイヤレスチャージングクロック  
NISSEIオリジナルノベルティ



2名 「青華一伊東豊雄との対話」  
大西 麻貴(著)



30名 QUOカード  
1,000円券

# NISSEI

本社

〒105-8411 東京都港区西新橋一丁目18番17号(明產西新橋ビル)  
TEL.03-3502-9555~7(ダイヤルイン) FAX.03-3597-9548  
parking\_n@nissei.co.jp

大阪支店

〒541-0053 大阪市中央区本町四丁目4番24号(住友生命本町第2ビル)  
TEL.06-6244-9401(代表) FAX.06-6244-9408  
osaka\_n@nissei.co.jp

札幌営業所

〒060-0042 札幌市中央区大通西八丁目2番地(住友商事・フカミヤ大通ビル)  
TEL.011-231-8513(代表) FAX.011-231-8514  
sapporo\_n@nissei.co.jp

名古屋営業所

〒460-0003 名古屋市中区錦二丁目14番19号(名古屋伏見Kスクエア 8F)  
TEL.052-228-2231(代表) FAX.052-228-2232  
nagoya\_n@nissei.co.jp

日立支店

〒312-0063 茨城県ひたちなか市田彦950番40号  
TEL.029-219-9931(代表) FAX.029-219-9932  
hitachi\_n@nissei.co.jp

山口支店

〒744-0004 山口県下松市青柳一丁目6番15号  
TEL.0833-43-6637(代表) FAX.0833-44-1945  
yamaguchi\_n@nissei.co.jp

福岡営業所

〒812-0038 福岡市博多区祇園町2番35号(プレスト博多祇園ビル3F)  
TEL.092-260-8571(代表) FAX.092-260-8573  
fukuoka\_n@nissei.co.jp



日精(株)ホームページ  
<https://www.nissei.co.jp/parking/>

アンケートに答えてプレゼントを当てよう！

応募方法

プレゼントの応募方法は、同封の「アンケート用紙」に必要事項をご記入のうえ、宛名欄に印字されているお客様番号をお忘れなくご記入いただきまして、はがき、またはFAXで、「日精(株)パーキングシステム事業部 営業本部」までご返送ください。厳正なる抽選のうえ、プレゼントの当選者を決定させていただきます。また、抽選に外れた方にも全員にQUOカード500円券をプレゼントさせていただきます。プレゼントご応募の締め切りは2024年7月末日まで。なお、プレゼント当選者の発表は当選されました賞品の発送をもちまして代えさせていただきます。

ホームページからも応募できます

[www.nissei.co.jp/parking/com](http://www.nissei.co.jp/parking/com)



ご回答の皆様  
全員にもれなく  
QUOカード  
500円券  
プレゼント



ISO 9001  
JQA-QM4349

百田有希(以下、百田) 僕はもともと、体育や音楽、美術など、身体を動かしたり手を動かしたりすることが好きな子供でした。自分の進路を考えたとき、「自分の好きなことがそのまま仕事になればいいな」と漠然と思っていた。陸上もやっていたんですけど、マラソン選手になるのも難しいし、美術は好きだけど、アーティストになれるとも思わないし…。そこで、「好

きなことをずっと仕事にしていけそうなものは何かな」と思ったときに、数学や物理も好きだったので、そういう手を動かすこと、学問的なものと併せていくと「建築」かなと思った、建築家を志しました。

大西麻貴(以下、大西) 中学生のときに家族で初めてヨーロッパに旅行に行った先がスペインで、ガウディの「サグラダ・ファミリア」を見て建築家になりたいと思いました。ひとりの人間が構想したもの、その人が亡くなつた後も大勢の人が作っているという事が驚きました。たったひとつ建築がバルセロナの街のアイデンティティになることがあります、作りながら歴史の一部になつているところがすごいな。最後に完成した「サグラダ・ファミリア」はもしかしたら、ガウディが生きいたら違うものになつていたかもしれないし、構想したものとは違う可能性もある。でも、そんなことはどうでもいいと思えるくらいすごいことが起こっていると感じましたね。

### 建築は、好きなことをずっとつづけていける仕事（百田） ガウディの「サグラダ・ファミリア」から受けた衝撃（大西）

# 「個」と深く向き合うことが 「個」を超えて広く共有される



2023年の日本建築学会賞(作品)を受賞した大西麻貴氏、百田有希氏が考える「インクルーシブ」と建築の可能性とは

COM vol.36



## CONTENTS

Front Line ■ 建築家インタビュー  
**大西麻貴 + 百田有希/o+h** 2

Arrangement ■ 納入事例  
**新虎安田ビル** 8

Arrangement ■ 納入事例  
**ザ ヨコハマ フロント** 10

Arrangement ■ 納入事例  
**住友不動産中野駅前ビル** 12

News Topics ■ ニューストピックス  
「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛  
福島工場の製造現場をYouTube動画で公開  
さらなる安全意識向上へ  
VR動画による研修を導入  
GrowOneメンテナンス紹介 14

Information ■ COMプレゼント  
16

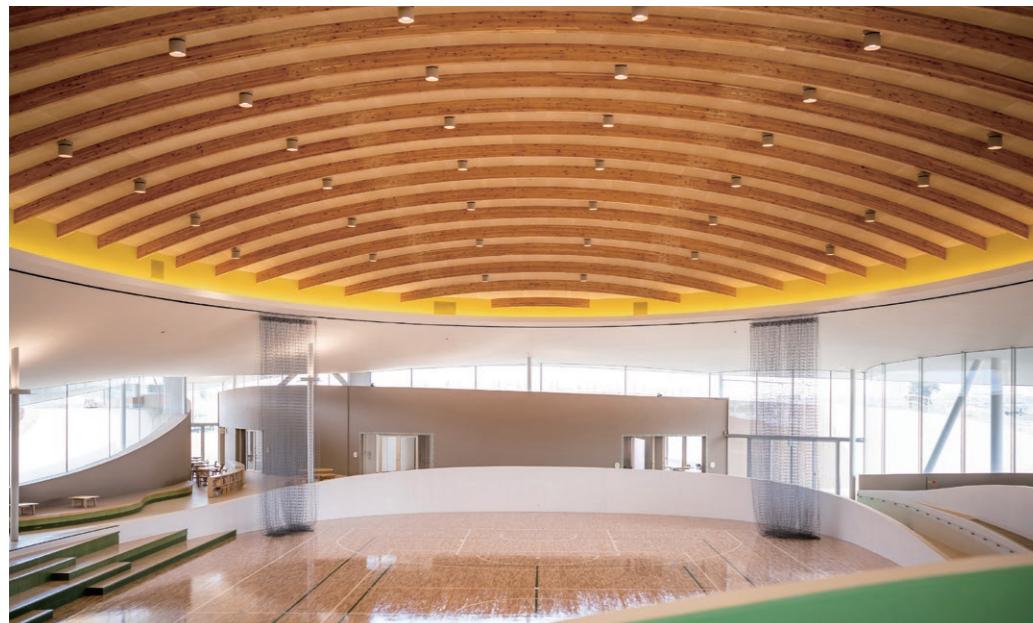


熊野東防災交流センター外観 ©Kai NAKAMURA

# 大西 麻貴 + 百田 有希/o+h

Maki ONISHI

Yuki HYAKUDA/o+h



シェルターインクルーシブプレイス コバル体育館内観

百田 それから2年ぐらい経つて大学院生のときに、伊東さんが主宰されていたワーキショップに参加したんです。福岡の「ぐりんぐりん」という伊東さんが設計された公園があるのですが、その中に東屋を作るというワークショップで、一番良かった案を実現するようになりましたが、そのエスキスが僕にとって人生を変えるような、大きな出来事でした。丸い円形の芝生の敷地だったのですが、そこには東屋を建てるときに、芝生の敷地と同じかたちの円盤のボリュームが浮かんでいて、そこにボコボコといろんな形の穴を開けた模型を僕は作って、伊東さんのエスキスに臨んだんですね。そのときに面白うな空間ができるているんだけども、全体として何な

らえたりして、順調に進んでいたと思つていたのですが、伊東さんとの出会いはしばらくトラウマになる経験でした。(笑)

大西 わたしは元々建築を学び始めたきっかけが、「サグラダ・ファミリア」だったので、でもそういう建築つて「今の時代にも作ることができるのかな」と疑問に

思つていて。伊東さんと学生みんなで飲みに行つたときに、「今の時代にサグラダ・ファミリアみたいな建築を作ることができるでしょうか?」という質問を投げかけたら、伊東さんは「できる」とおっしゃつて。「時代が違つても、ひとつ建築に同じだけの想いを込めるることは可能だ」と。それもわたしにとっては、建築家になりたいなど改めて感じた瞬間でした。

## 共同主宰と、「コバル」へとつながる縁、「インクルーシブ」という考え方

大西 百田は大学の同級生で、はじめはどちらかというとライバルでした。四回生の時に、山形にあるシェルターインクルーシブプレイスは障がいの有無や家庭環境の違いなどに関して…と、いろんなイメージが頭の中にありました。その敷地は人工の埋め立て地で、地下は作れないような場所なんですが、そのボリュームが「地面を切り取つて地面を持ち上げたもの」と捉えるとどうだろうと投げかけが帰つてきた。その瞬間に土で

のかがわからんないんですよね」という問いかけをしたところ、伊東さんがひとこと「浮かんだ洞窟かもしれないな」とおっしゃつたのです。その敷地は人工の埋め立て地で、地下は作れないような場所なんですが、それがいつに設計に取り組んだのですが、その時、経験がすごく楽しくて、それがきっかけで以降一緒に設計しています。その後、東日本大震災の際に伊東さんと一緒に「公共建築つてこういう風に作れたらいいのに」と話していたのです、つまりみんなが、こうあつたらいいなどという思いを持ち寄つて、ともに作つていくつくり方ですね。それを本当に実現したのが今回の「コバル」。ずっとつながつてゐる

百田 「コバル(山形市南部児童遊戯施設シェルターインクルーシブプレイス)」は障がいの有無や家庭環境の違いなどに関わらず、誰もが遊べる遊び場として構想されていて。当時学生コンペは今みたいにたくさんなくて、数が限られていましたけれど、そこに一緒に応募しようとした。初めて一緒に設計に取り組んだのですが、その家の「コミニティースペースを東松島の仮設住宅団地の中に作るとき、シェルターさんが協力して作つてください。そのときに「公共建築つてこういう風に作れたらいいのにね」と話していたのです、つまりみんなが、こうあつたらいいなどという思いを持ち寄つて、ともに作つていくつくり方ですね。それを本当に実現したのが今回の「コバル」。ずっとつながつてゐる

百田 「コバル(山形市南部児童遊戯施設シェルターインクルーシブプレイス)」は障がいの有無や家庭環境の違いなどに関わらず、誰もが遊べる遊び場として構想されました。山形の雪が多い地域は、冬にお子さんが遊ぶ場所が限られてしまい、屋内型の体育館や遊戯施設が各地で作られています。その中で今回のプロジェクトは募集要項から「インクルーシブな場を作つてしまい」と掲げられていました、めずらしいプロジェクトでした。そこで僕たちはいくつかの試みをしたんですけど、空間的な大きさの特長となつてるのはスロープです。普通スロープというのは、段差を解消するために「必要なもの」として整備されることが多いと思うのですが、同時にスロープは子どものたちにとっては、思わず駆け上がりたくなる坂道でもあるという形で、「ひとつものに多重の意味を見出していく」という方法で「デザインすることで、障がいの有無に関わらず魅力的な場になつていま



居住滞在型インキュベータ施設 toberu2 ©Yurika Kono

**「ものを生み出すことば」がある。  
伊東豊雄先生との運命的な出会い**

百田 京都大学の建築学科というところは、僕たちがいた当時は高松伸さんや竹山聖さんが先生としていらっしゃつて、「建築は美しくあらねばならない」「最終的に建築は感性で評価される」と教わりました。そういう中で非常勤講師としていらして

いた伊東豊雄さんは「あなたにとつての建築とは何ですか?」という問い合わせをされ、「自分の中に建築というものあるのか?」と思ってびっくりしたのです。建築つて何なのかななど、すごく悩みました。それまでは設計をがんばつて、最後に発表をさせてもらひました。その後、その歩いた距離よりも遠い世界に来てしまつたようになります。そういう道の奥へ、いわゆる「碁盤の目」のように整備されたのですが、どういう風に道を計画したのか、それを京都の街に住んできた人が、どういふ風に「路地」や「突抜」と呼ばれる細い街を歩いていると、細い路地を通つていくと、その歩いた距離よりも遠い世界に来てしまつたようになります。そういう道の奥へ行きというものにも気がつかされました。



シェルターインクルーシブプレイス コバル外観

百田 京都に6年間下宿したんですね。それは生まれて初めて自分の意志で住む場所を決める体験だったと思うんです。新しい生活が「一台の自転車を買う」ところから始まつて、自転車に乗つて新しい街を巡ることで、経験がどんどん広がつていくんです。

下宿先から自転車に乗つて街に出でて行き、その途中に鴨川が出てきたり、東山がきれいに見えたり。自分の日常の生活の中に入つてくるのが京都の街。自分の生活の一部になつていくという感じがしてすごいことだな。京都の街が自分の心と身体に、そういう豊かな、文化的な資産や風景が入つてくるのが京都の街。自分の生活の一部になつていく感覚があつて、地面をずっと歩いたり自転車で移動したりしていくことを通して、京都という都市を豊かに経験できるということが重要だと思うんですね。東京や大阪つて、地下鉄に乗つて移動することが多い。そうすると、そういう感覚つてなかなか芽生えない。自分と連続したものだという感覚つて。京都という街は自然と地続きでとらえられるのが素晴らしい。

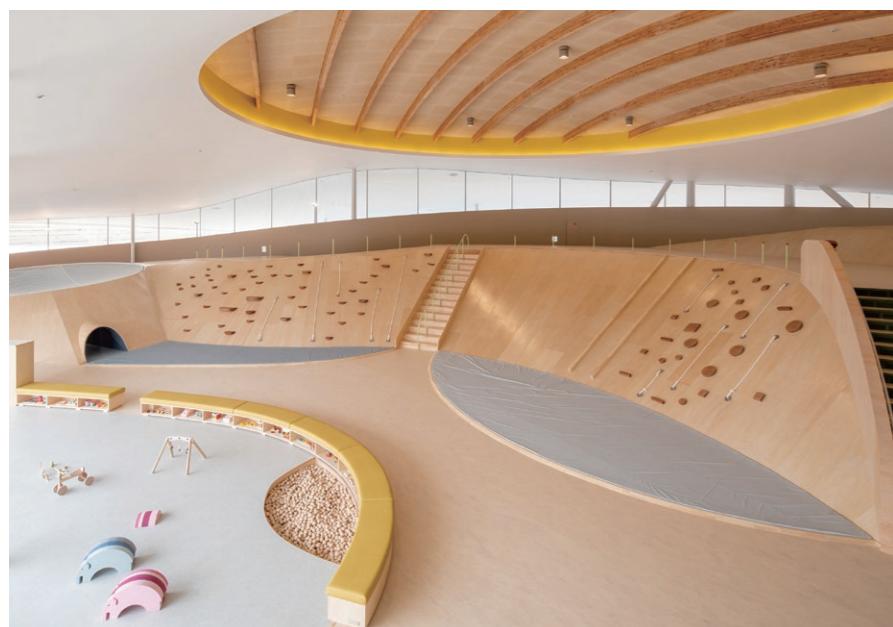
大西 わたしにとつても、京都の街で暮らすのを通じて、京都という都市を豊かに経験できるということが重要だと思うんですね。東京や大阪つて、地下鉄に乗つて移動することが多い。そうすると、そういう感覚つてなかなか芽生えない。自分と連続したものだという感覚つて。京都という街は自然と地続きでとらえられるのが素晴らしい。

## 学生時代を過ごした京都で培つた身体の一部の「街」と「道」の視点

せた経験はすごく大きなことで、今、自分がたちが建築を考えるときも、「(京都)どながつてあるな」と思います。そのひとつは「道」の面白さですね。京都つて街の作り方が面白い。わたしたちが一回生のとき

に、高橋康夫先生という都市史の先生がおられて、先生は京都の都市の歴史を「道」を中心に話してくださいました。京都の都市の歴史つて、たとえばそれを地形との関係から見たり。自分の日常の生活の中

に、たかいうお話をあつて。また、京都の街を歩いていると、細い路地を通つていくと、その歩いた距離よりも遠い世界に来てしまつたようになります。そういう道の奥へ行きというものにも気がつかされました。



シェルターインクルーシブプレイス コバルト遊技場の内観

その代わりに、地域にそれぞれあつた学校がひとつにまとまつてしまふので、子どもたちが学校内だけで学ぶのではなくて、桜島全体に出かけて行つて、桜島をまるごと学舎（まなびや）にするような、そういう学校を目指しています。「コバル」も建築はもちろん、運営と建築を両方一緒に考えるというプロジェクトでした。最近は単にハードとしての建築を作るだけではなく、中身はもちろん、その後の使い方まで、わたしたちが関わつていくことが当たり前になりつつあるので、学校を作るときにも、たとえばどんな学び方ができるだろうといふところを、鹿児島市さんや先生方と一緒に育てていくところから考えられたらしいなと今すごく思っています。

ると思うんですよね。どんどん社会が縮小していくなかで、そうした制度が維持できなくなつたときに、サービスが劣化してやむなくひとつに統合されていくと捉えるのか、豊かにひとつになつていくのかというのは、大きな違いだと思うんです。たとえば街のなかに、「ここでごはんを食べたら最高に気持ちがいいな」という場所があつて、そこにおじいちゃんもおばあちゃんも子供も障がいのある人もない人も、みんな集まつて食べたらいいなっていうことは

あり得ると思う。そういう風に「ひとつのもに多重の意味を見出していく」形で、小さく統合して豊かになつてていくことがで  
きるんじゃないかなと。

機械式駆逐場にて

**大西** 機械式駐車場は、街の中に複数展開することが価値の1つなのではないかと思います。たとえば、一階がコミニユニティスペースになつたら、もつと

街づくりや都市計画の一部になるのではないでしようか。機械式駐車場も街づくりの視点で、点在しているという特徴を活かしていけば面白いのではないかと思います。

百田

先の「ひとつのこと」に多重の意味を見出していく話とつながるのですが、ただ量の問題を解決するだけでなく、街のなかの「塔」のような存在が自然とできるわけですよね。その「塔」という併まいに対しても、都市景観としての価値を見出していくことが重要になつて

いくのかなど。



P R O F I L E

1983年、愛知県生まれ。2006年、京都大学工学部建築学科卒業。2008年、東京大学大学院工学系研究科建築学専攻修士課程修了。大西麻貴+百田有希+o+h共同主宰。2022年、横浜国立大学大学院Y-GSAプロフェッサーハウスにて開設。

**百田 有希** Yuki HYAKUDA  
1982年、兵庫県生まれ。2006年、京都大学工学部建築学科卒業。2008年、同大学院工学研究科建築学専攻修士課程修了。大西麻貴+百田有希/o+h共同主宰。2009-14年、伊東豊雄建築設計事務所勤務。2017年、横浜国立大学非常勤講師

【主な受賞】  
2005年・2006年、シェルター学生設計競技最優秀賞、2007年、SDレビュー鹿島賞(千ヶ谷の別荘)。2017年、グッドデザイン賞ベスト100受賞(Good Job! Center KASHIBA)。2018年、JIA新人賞。2019年、日本建築学会作品選奨・新人賞(Good Job! Center KASHIBA)。2023年、日本建築学会賞(作品)BCS賞受賞(山形市南部児童遊戯施設シェルターアイ・クリエイブプレイスコバル)



1

**機械式駐車場について**  
大西

「ひとつのものに多重の章  
共に育て

「ひとつのものに多重の意味を見出していく」

「、共に豊かになる建築へを見出していく」

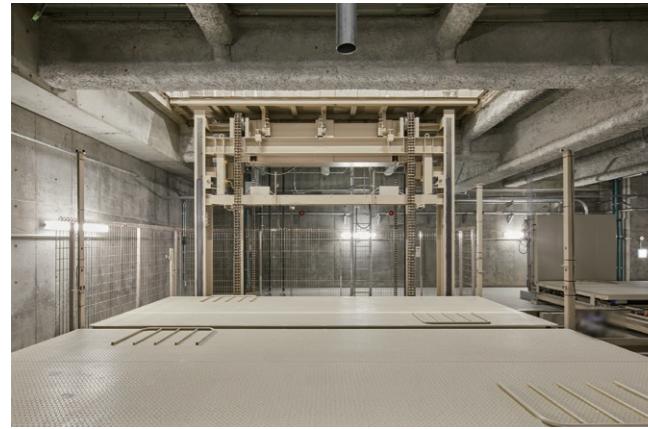
から始まつたものが広がつてみんなに共有されたというような、そういう喜びや、驚きがあります。そういうことが「インクルーシブ」という言葉には含まれているんじゃないかなと思うんですね。

**大西** そうですね、誰か個人に深く向き合つていくことが、その人という個人を超えたもう少し幅広い人々にも共有されるものを生み出す。それは障がいのある人と向き合うときのだけの話ではなくて、たとえば、よく建築を作るときに、ワークショップをしますが、昔はそれが何故必要か少し疑問だつたんです。たとえば、建築ってそれこそ50年とかもつと長い期間残るにもかかわらず、今、目の前にいる誰か、しかもすごく限られた人の欲望で作ることって限定的ではないか、と思ったときもあります。でも小豆島に通つていた頃に、太鼓祭りという昔からやつてあるお祭りを見て、瀬戸内海に向かつて男たちが太鼓を担ぐ様子を棧敷席で見たときに、中世とか古代から人間はこういう風に海に感謝して、生れて来たのだなと実感して、今、目の前に入いる人と深く話すことが、実は小豆島の文化ですね。特定の個人と深く向き合うことですね。

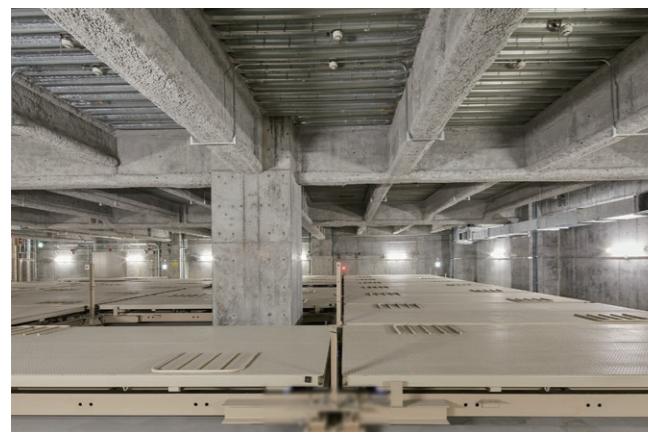
昔に生きていた人や、これから生まれてくる未来の人と話しているのと一緒だと思えるようになつたんです。それが「インクルーシブ」の考え方とつながっているな、とわたしは思います。



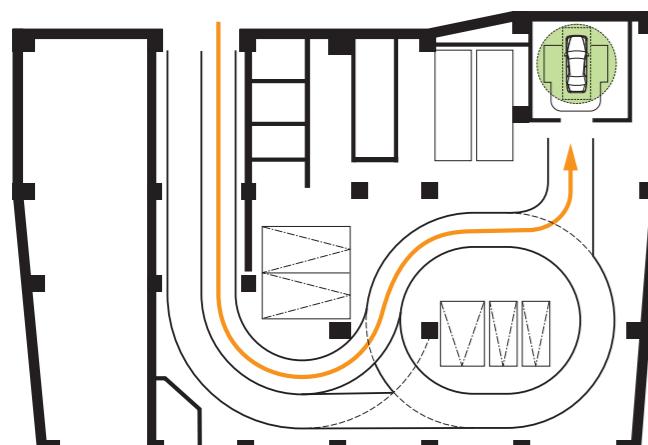
Good Job! Center KASHIBA内観 ©Yoshiro MASUDA



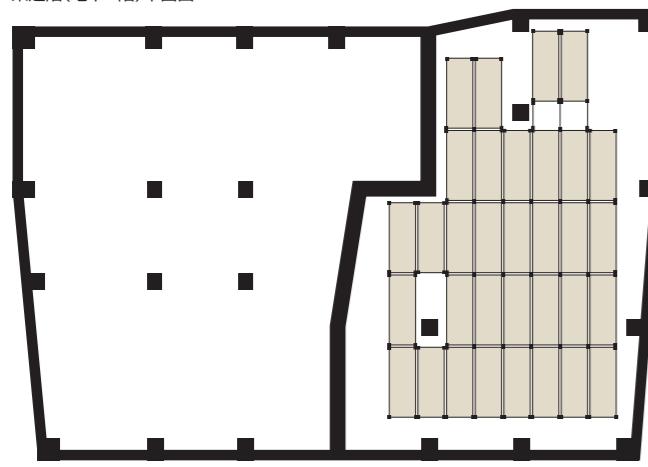
格納部(リフト)



格納部 据付階平面図 右奥側



乗込階(地下1階)平面図



据付階(地下2階)平面図

都市部に立地する当ビルの駐車設備には、水平循環方式「フレキシブルパーク」が採用されました。ターンテーブル内蔵により前進出入庫が可能となっており、スピーディーな入库動作はもちろん、段差のないフラットトレーが安全かつスムーズな車の移動を実現し、利用者の快適性を向上させております。また、ビル裏側からアクセスするスロープを下つて出入

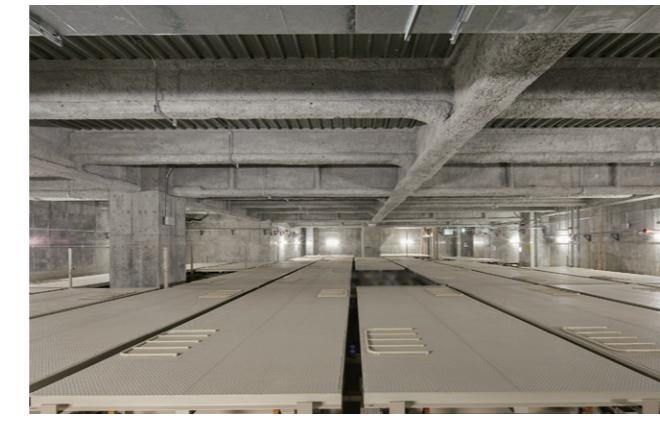
キヤンバスに見立てたとされています。外観は白。その理由は「新しい価値を創造する場でありたい。」という想いを込めたからなのだろう。また、上階から低層部までシンプルに柱を通して、一体感とスタイリッシュ感が表現されつつ、新虎通りに面した1階部分は、シックでどこか懐かしさを感じさせます。

## 「人」の「賑わい」を重視するエリアで最大に發揮される高機動性

「人」と「賑わい」を分断しません。同様ならではの設計の自由度を活かし、余剰空間を最小限に抑えた効率的な配置で、地下1層の限られたスペースに最大限の収容台数を確保。私たちは、快適で効率的なビル利用をサポートし、都市環境における利便性の向上に積極的に貢献しております。



リフト部(上部開口)

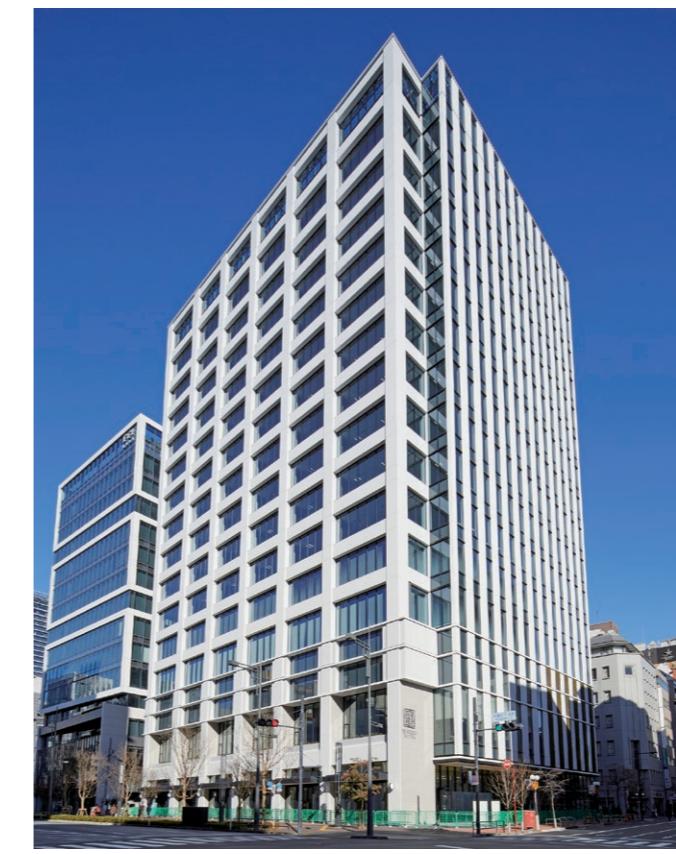


格納部 据付階平面図 下側(右奥リフト)

東京2020オリンピック・パラリンピック開催の際に、選手村とスタッフアムを結ぶ重要な道路の一部として開通、東京の新しいシンボルストリートとなりつつある「新虎通り」。新橋と虎ノ門を結ぶ環状二号線の地上部道路である、この「新虎通り」は、車道とほぼ同じ幅の歩道が左右に設置されるなど、「人」を中心とした「賑わい」を重視したエリアとなっています。「新虎安田ビル」は、このエリアの真ん中あたりに位置、虎ノ門ヒルズと汐留シオサイドのほぼ中間地点にあります。

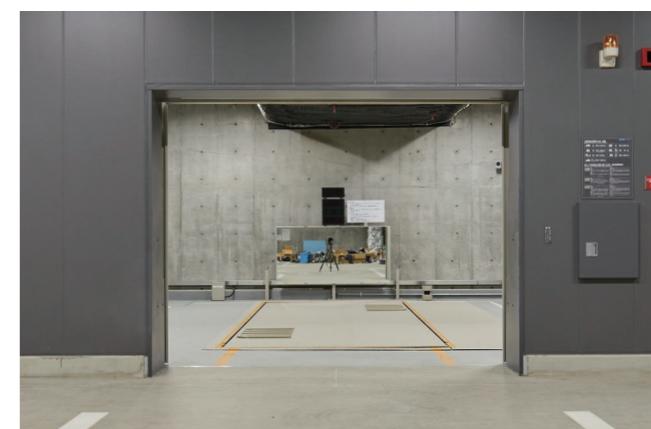
建物全体の外観デザインを、白いキャンバスに見立てたとされています。外観は白。その理由は「新しい価値を創造する場でありたい。」という想いを込めたからなのだろう。また、上階から低層部までシンプルに柱を通して、一体感とスタイリッシュ感が表現されつつ、新虎通りに面した1階部分は、シックでどこか懐かしさを感じさせます。

環境への配慮、自由な働き方を叶える空間づくりなど、次世代に求められるものを集結し、未来を見据えた新たなビジネス拠点となる「新虎安田ビル」。このビルで働く人々にとって、新たなアイデアを生み出すきっかけが日常的にあふれる、刺激的な場所となることが期待されます。



新虎安田ビル 外観

<b>【建築概要・規模】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■建 築 主 / 安田不動産株式会社</li> <li>■敷地面積 / 2,234.19m<sup>2</sup></li> <li>■延床面積 / 25,819.97m<sup>2</sup></li> <li>■構造規模 / 地上14階、地下2階、塔屋2階</li> <li>■設 計 / 株式会社松田平田設計</li> <li>■施 工 / 清水建設株式会社</li> </ul>
<b>【駐車設備概要】</b>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■機種 / フレキシブルパーク(水平循環方式) ■型式 / FLX1LSRH1-30 (3) FDHT-B</li> <li>■収容車サイズ / 全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg</li> <li>■収容台数 / 大型ハイルーフ車30台</li> </ul>



オートドア開閉時

## 東京のシンボル的エリアでスタイリッシュなレトロが調和した新虎安田ビル

# THE YOKOHAMA FRONT (ザ ヨコハマ フロント)

**都心にいながら、都市を俯瞰する！  
これから横浜を牽引する、  
横浜駅直結の世界水準タワマン**

日本で初めての「国家戦略住宅整備事業」に認定された「横浜駅きた西口鶴屋地区第一種市街地再開発事業」。国家戦略住宅整備事業は、「産業の国際競争力強化および国際的な経済活動の拠点形成」を目的に、住宅整備を促進する事業です。この物件は、グローバル企業の就業者支援に必要な機能が併設され、防災・環境性能にも優れた建物になっています。住宅部分は、従来よりも天井が高い居室、段差がない玄関などのハーフ面。多言語対応コンシェルジュサービスの提供など、居住者が快適に暮らすための提案、サポートが充実しています。

「ザ ヨコハマ フロント」全体は、地上43階建ての複合施設です。総戸数459戸の共同住宅、店舗、ホテル、サービスアパートメントなどで構成されています。

最上階(地上42階)には複合施設である「V1ag yokohama (フラグヨコハマ)」を開業。会員制ベース「V1ag yokohama Hall & Studio」、プライベートオフィスを備える開放的なホールです、フラグヨコハマの名には、「未来の兆し(=V1ag)」溢れるクリエイティブラウンジとして、出会った仲間と明るい未来へ向かう第一歩を支援したい、という想いが込められています。

つねに先進的で、多様な人々が交流する、横浜駅きた西口エリア。この街の幅広いニーズへ応えられるよう、店舗やクリニックモールなどの施設も存在しています。

明治以来、横浜は国際都市として発展し続けてきました。今後も変わらず

置されることで、利用者のそうした期待にお応えできると言えるでしょう。

役割を果たす一助につながる「ザ ヨコハマ フロント」の誕生。全国から人々が訪れ、行き交う横浜の玄関口である横浜駅前(FRONT)で、唯一無二の確かに(THE)シンボルとなり、横浜らしさを生み出していく新しい存在として、威風堂々と完成いたしました。

## 快適性と安全性を 地下駐車場にも

地下駐車場についても不特定多数のご利用者に快適な使用をサポートする為に、地下の限られた空間に機械式駐車設備を2基設置。いずれも3

層のうち2層はハイルーフ対応で、ハイルーフ車を多く収容できるようになっています。

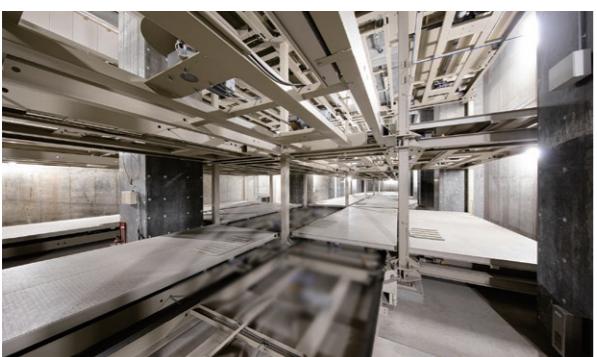
駐車場までの導線も入口と出口で分かれています。地下の共有スペースであり、利用者が安心感を感じることができます。これが駐車場の条件として、利便性と安全性は必須です。ICカードを使用した操作による利便性の向上に加え、180度旋回する旋回装置を内蔵することで、車のスピードーな段差の少ないフラットな乗降スペースなど、乗降時の安全性や快適性に配慮された「フレキシブルパーク」が設



乗降室内部(1号機)



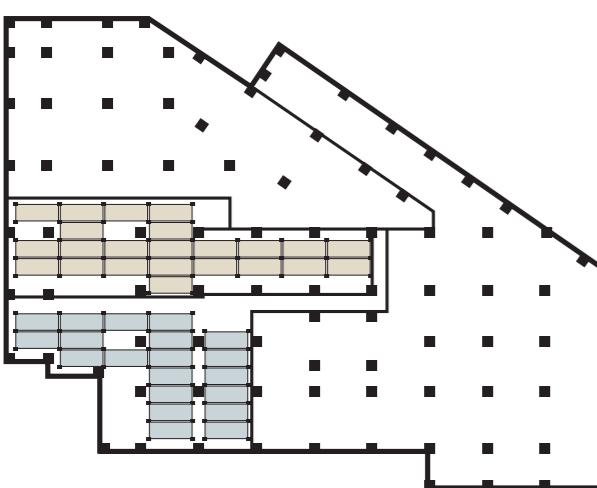
乗降室内部(1号機)



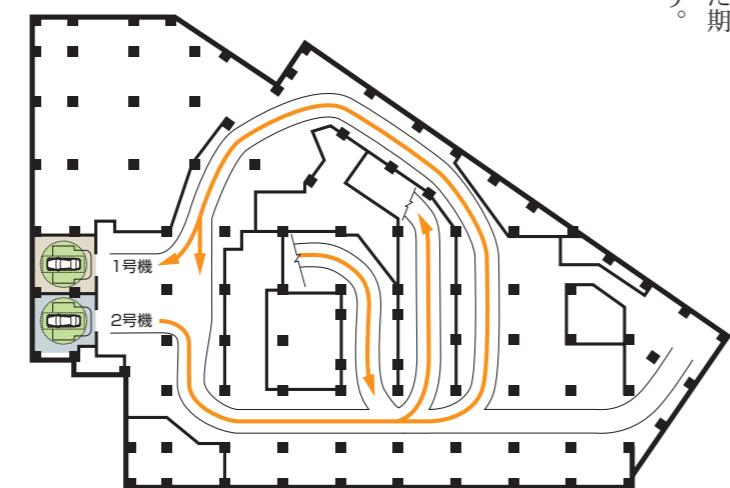
格納部(1号機)



格納部(1号機)



据付階(地下2階)平面図



乗込階(地下1階)平面図



ザ ヨコハマ フロント 外観

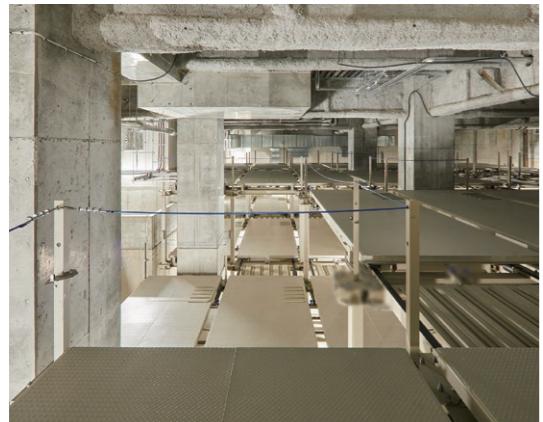


B1階\_乗降室



オートドア開閉時(1号機・2号機)

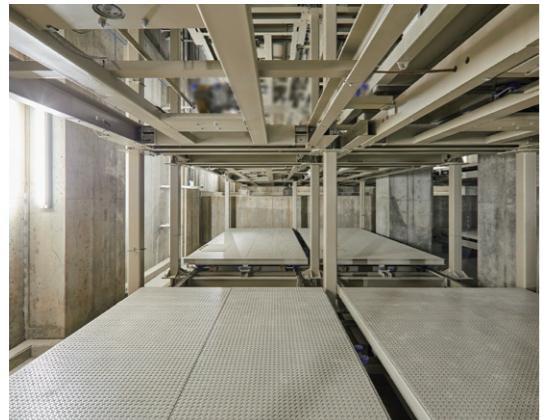
【建築概要・規模】		
■建 築 主	横浜駅きた西口鶴屋地区市街地再開発組合	
■敷地面積	6,687.15m <sup>2</sup>	■延床面積 / 79,082.18m <sup>2</sup>
■設 計	株式会社松田平田設計・株式会社UG都市建築・株式会社東急設計コンサルタント	■構造規模 / 地上43階、地下2階
■施 工	株式会社大林組	設計共同企業体
【駐車設備概要】		
■機 種	フレキシブルパーク(水平循環方式)	
■型 式	1号機 FLX1LSH3-58(9)FDHT-B 2号機 FLX1LSH3-49(9)FDHT-B	
■収容台数	1号機 107台(大型車37台、ハイルーフ車70台)	2号機 107台(大型車37台、ハイルーフ車70台)
■収容台数	1号機 大型車(20台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550mm 重量2,500kg ハイルーフ車(38台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg	2号機 大型車(17台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高1,550mm 重量2,500kg ハイルーフ車(32台)全長5,300mm×全幅1,950mm×全高2,000mm 重量2,500kg



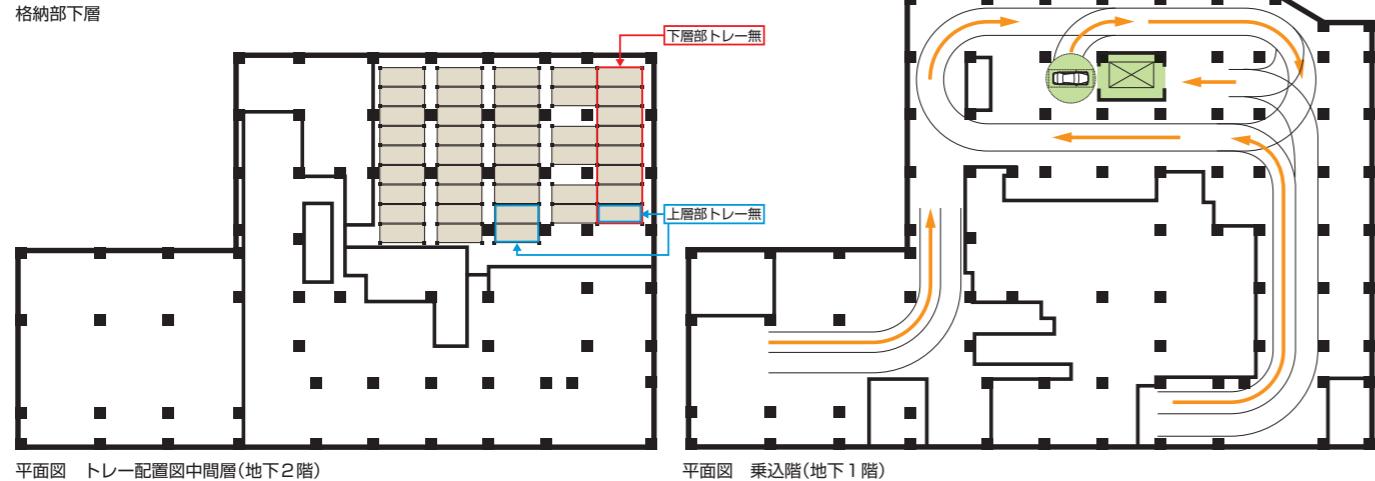
格納部上層



格納部中間層



格納部下層



「住友不動産中野駅前ビル」では、設備面においても先進的な取り組みがなされています。ビルは三段階の無停電供給システムを採用し、万が一の事態に備えて共用部照明などへの72時間連続給電を可能にするB.C.P.(事業継続計画)対策を施しています。さらに、地下駐車場には、日精の「水平循環方式フレキシブルパーク」が採用されており、多様な建築ニーズに応える効率的な駐車ソリューションを提供しています。

大型車30台、大型・ハイルーフ車70台、計100台と大量の収容ができるタイプは国内でも最大収容の部類になります。地下の格納部は3層構造。

それぞれ各層ごとにレイアウトが違う構成で、空間効率を最大限に活用することによって複雑な地下レイアウトに対応しています。

また、乗降室は通り抜け方式で、入り口と出口が前後で設置されていて、入庫時、出庫時のいずれも前進のみ。

「住友不動産中野駅前ビル」では、設備面においても先進的な取り組みがなされています。ビルは三段階の無停電供給システムを採用し、万が一の事態に備えて共用部照明などへの72時間連続給電を可能にするB.C.P.(事業継続計画)対策を施しています。さらに、地下駐車場には、日精の「水平循環方式フレキシブルパーク」が採用されており、多様な建築ニーズに応える効率的な駐車ソリューションを提供しています。

大型車30台、大型・ハイルーフ車70台、計100台と大量の収容ができるタイプは国内でも最大収容の部類になります。地下の格納部は3層構造。

## 100台の大規模な収容能力を持つ地下駐車場

「住友不動産中野駅前ビル」では、設備面においても先進的な取り組みがなされています。ビルは三段階の無停電供給システムを採用し、万が一の事態に備えて共用部照明などへの72時間連続給電を可能にするB.C.P.(事業継続計画)対策を施しています。さらに、地下駐車場には、日精の「水平循環方式フレキシブルパーク」が採用されており、多様な建築ニーズに応える効率的な駐車ソリューションを提供しています。

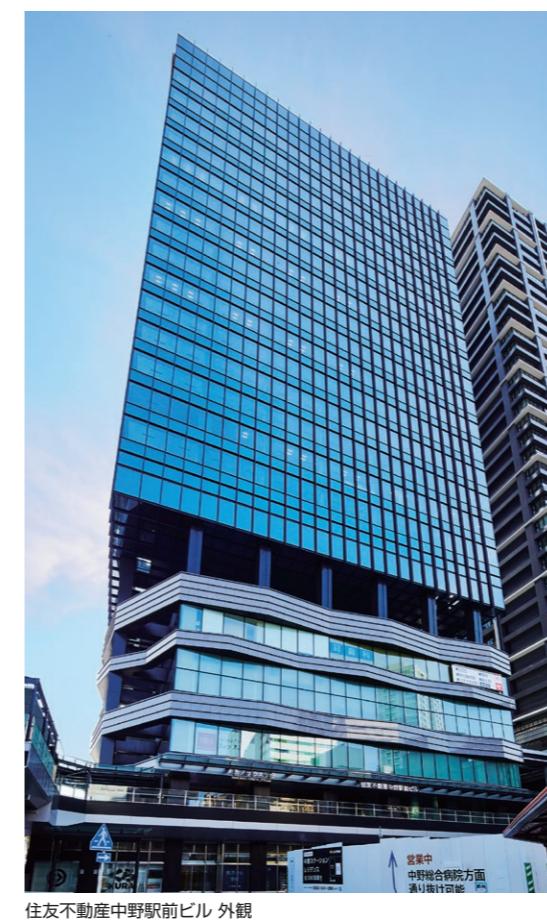
大型車30台、大型・ハイルーフ車70台、計100台と大量の収容ができるタイプは国内でも最大収容の部類になります。地下の格納部は3層構造。

中野区は現在、中野駅周辺地区で「東京の新たなエネルギーを生み出す活動拠点」としていくため、駅周辺全体を11のまちづくり事業に分け、大規模な再開発事業を行っています。今回、紹介する「住友不動産中野駅前ビル」は、この11プロジェクトの中でもっと早く竣工した、再開発事業の中のひとつです。中野駅南口では活性化とともにぎわい創出を目指す「中野二丁目土地区画整理事業」と「中野二丁目のプロジェクトがすすめられていて、「中野ステーションレジデンス」とともに「ナカノサウステラ」として、市街地再開発事業によるものと位置付けられています。

ペディストリアンデッキで駅とつながった「住友不動産中野駅前ビル」は、1～5階にはルノアールやココカラファイン、フィットネスジム、メディカルモールといった商業施設が入居。

野駅周辺では、新しい駅舎、ホテル、野駅前という場所に実現しました。2030年頃までに、中野駅と中野駅前、広場などの建設が予定されています。

若者文化のサブカルチャー発信地として知られていた中野サンプラザなど、中野のシンボルは解体が予定されていますが、こうした再開発の事業が、中野のシンボルとなる日もそれほど遠くはありません。そして、その時こそ日本の人々のパーキングテクノロジーは、未来の風景を支える社会インフラとしてさらなる貢献を果たしてまいります。



<b>【建築概要・規模】</b>	■建 築 主 / 住友不動産株式会社 ■敷地面積 / 5,676.67m <sup>2</sup> ■構造規模 / 地上20階、地下2階 ■設 計 / 株式会社アール・アイ・エー ■施 工 / 西松建設株式会社
<b>【駐車設備概要】</b>	■機 種 / フレキシブルパーク(水平循環方式) ■型 式 / FLX1LSWRE3-100(10)FD-BT ■収容車サイズ / 大型車(30台)全長5,300mm×全幅2,050mm×全高1,550mm 重量2,600kg ハイルーフ車(70台)全長5,300mm×全幅2,050mm×全高2,050mm 重量2,600kg ■収容台数 / 100台(大型車30台、ハイルーフ車70台)

## JR中野駅前に 職住育近接型の施設が新たに誕生！

機械式駐車設備 ● 納入事例

# デジタル変革をリードする 設備保全業務に革新をもたらす基幹システム *GrowOne メンテナンス*

アフターサービス業務を収益の柱に変える「GrowOne メンテナンス」。当システムは設備保全業務に特化したアフターサービス業務向け基幹システムです。アフターサービス業務に携わる全ての人・設備をデジタルでつなぐプラットフォームとして機能し、業務効率化と顧客ロイヤルティ向上により、収益拡大をサポートします。

**01**  
アフターサービス業務の  
**収益拡大**  
部品や設備の交換時期の把握により、営業提案を漏れなく行い、提案漏れによる機会損失を防ぎます。

**02**  
デジタル化推進による  
**現場負荷軽減**  
タブレットを活用し、報告業務を現場で完結させることで、現場負荷を軽減します。

**03**  
お客さま・協力会社・設備と繋がる  
**プラットフォーム**  
設備状況や不具合状況をお客さまとリアルタイムに共有し、継続的な関係構築を支援します。

## お客様の声

**大成有楽不動産株式会社 様**  
決裁の電子化により、  
**年間4万件分の「紙」と「時間」の削減を達成。**

業種:ビルメンテナンス業/従業員数:3,000名(2023年1月1日現在) 2021年12月取材

## 導入の背景・課題

- 1 紙の申請書類作成やFAX送信が大きな負担となっていた。
- 2 点検や対応履歴など、情報の入力が進まず、顧客満足や営業成果につながるナレッジが蓄積されない。
- 3 お客様や協力会社との情報連携など、情報を活用した働き方を目指したい。

## 導入効果

- 年間4万件分の「紙」と「対応時間」を削減でき、見積依頼に対し、翌日対応が可能になった。
- 日常業務の中で自然とデータが蓄積し、データ活用へチャレンジできる環境が整った。
- システムのオープン化で、お客様や協力会社が直接データを閲覧できるようになり、お客様満足度の向上と報告業務の効率化に寄与した。



For a Lively World



今すぐ資料入手!  
ダウンロードはこちら

お問い合わせ先  
**株式会社ニッセイコム 03-6774-7212**  
【受付時間】平日 9:00~17:30



当社と株式会社ニッセイコムは、日精ホールディングスグループの一翼を担うパートナー企業です。



発行日:2024年6月25日  
通刊第36号  
発行:日精株式会社  
パーキングシステム事業部  
〒105-8411 東京都港区西新橋1-18-17  
明座西新橋ビル  
TEL.03-3502-9555~7(ダイヤルイン)

本誌掲載の写真・記事の無断転載および複写を禁じます。

日頃より「COM」をご愛読いただきまして、ありがとうございます。  
編集スタッフ一同、心から感謝申し上げます。  
今号の建築家インタビューでは、  
青年建築家のコラボレーションとして注目の大西麻貴氏、百田有希氏にお話を伺いました。「インクルーシブ」な建築の可能性を追求されるお二人の世界の一旦をご紹介できたかと思います。  
日精はこれからも皆様にご満足いただける駐車設備を提案してまいりたいと存じます。  
皆様の日々のお仕事の中で何かのヒントになれば幸いです。  
今後とも何卒変わらぬご愛顧を賜りますよう、お願い申し上げます。  
最後になりましたが、取材に当たり、ご協力いただきました皆様方に厚く御礼申し上げます。

## 編集後記



## 2025年大阪万博「大阪ヘルスケアパビリオン」に物品協賛



**Osaka  
Healthcare  
Pavilion  
Nest for Reborn**

将来の健康状態予測を体験できる  
RFIDタグを物品協賛いたします。

日精は、2025年の大阪・関西万博へ出展予定の「大阪ヘルスケアパビリオン Nest for Reborn」へ物品協賛いたします。「Nest for Reborn」は、大阪府と大阪市がオール大阪で出展するパビリオンです。「いのち」と「健康」の観点から未来社会の価値創造を目指し、SDGs先進都市である大阪の姿を世界に示します。

出展のテーマに「人」は生まれ変わる、新たな一步を踏み出すという意味を込めて、「REBORN」を掲げています。「日精」は出展の基本理念に賛同、大阪地域の発展に寄与するため物品協賛を決定いたしました。

私たちが担当するのは、パビリオン来場者に配布されるリストバンドに内蔵された「RFIDタグ」の物品協賛です。来場者が自身のパーソナルヘルスコードを登録すると、将来の健康状態予測を体験できます。来場の際はぜひ、新技術をお試しください。

2025年大阪・関西万博の成功、そして大阪エリアのさらなる発展に貢献してまいります。

福島工場の製造現場を  
YouTube動画で公開

日精の先端技術が集結した福島工場  
ものづくりへの取り組みを紹介いたします。

1993年4月に稼働をスタートさせた福島工場。「日精」の先端技術を結集させた「フレキシブルパーク」を主力に、機械式地下駐車場設備に必要なトレーラー/フレーム製作を担う施設です。開発・試験棟や研修施設も併設されており、高い技術力と安全性を最大に配慮したものがづくり、メンテナンスに取り組んでおります。

安心して設置、ご利用いただくために、わたしたちは日々、努力を重ねています。安全・品質管理や製造・検査の様子を動画にまとめましたので、ぜひご覧ください。

さらなる安全意識向上へ  
VR動画による研修を導入

## 深刻な事故をリアル再現

プロセスを再認識で、危機管理能力を向上

「日精」のメンテナンス部署では、VR動画による研修を取り入れております。実際に起きる可能性のある落下や巻き込みといった深刻な事故を、バーチャルリアリティを用いてリアルに再現、危機管理能力の強化に努めます。

VR技術の活用で、日々の作業で見落としがちなプロセスを再認識、安全意識向上へ導く新しい取り組みです。

パーキングシステム安全技術研修所で実施している研修内容の一部を体感いただくため、動画配信をスタートいたしました。「日精」の地下駐車場を検討いただいている方、すでに導入いただいているご担当者様やご利用者様に、私たちが誇る安全への取り組みを知っていただければ幸いです。

